

年 表

西暦	ギッシング関連	政治・経済	社会・文化	文学・思想
1857	11月22日、薬剤師トマス・ウォラー・ギッシングとマーガレット・ベッドフォード・ギッシングの長男として、ヨークシャーのウェイクフィールドで誕生。	経済恐慌 セボイの反乱 シバーヒーの反乱 (インド大反乱) アロー戦争(～60)	リヴィングストン、アフリカ横断 ベッセマー、製鋼法発見 アルパイン・クラブ設立	アクトン『生殖器官の機能と疾患』 ギヤスケル『シャーロット・プロンテの生涯』 バックル『イギリス文明史』 ヒューズ『トム・ブラウンの学校生活』 E・B・ブラウニング『オーロラ・リー』
1858		第2次ダービー内閣 インド法		モリス『グイニヴィア女王の弁護』
1859	9月15日、弟ウィリアム誕生。	第2次パーマストン内閣	ダーウィンの進化論	ダーウィン『種の起源』 スマイルズ『自助論』 J・S・ミル『自由論』 スペンサー『身体の教育』 G・エリオット『アダム・ビード』 テニスン『国王牧歌』 メレディス『リチャード・フェヴァレルの試練』 ディケンズ『二都物語』
1860	11月25日、弟アルジェノン誕生。	英仏通商(コブデン=シュヴァリエ)条約 北京講和条約 グラッドストンの関税・財政改革	不純食品取締法 人間の起源をめぐるオックスフォード論争 ナイティンゲール看護婦訓練学校	G・エリオット『フロス河の水車小屋』 コリンズ『白衣の女』 ディケンズ『大いなる遺産』(～61)
1861		アルバート殿下没 リンカーン大統領就任(米) アメリカ南北戦争(～65)		G・エリオット『サイラス・マーナー』 E・B・ブラウニング没 ラスキン「この後の者にも」
1862				ツルゲーネフ『父と子』
1863	10月27日、妹マーガレット・エミリ誕生。 1870年にかけてミス・ミルナーの子供学校、ジョゼフ・ハリソン師の共同教会学校に通う(ともにパーク・レーンのユニテリアン派の校舎にあった)。	奴隷解放令(米)	ロンドンで地下鉄開通 メアリ・アン・ウォークリー過労死事件	T・ハクスリー『自然における人間の地位』 ライエル『太古以来の人間』 ギヤスケル『シルヴィアの恋人たち』 キングズリー『水の子』 サッカー没

1864		ロンドンで第1次 インターナシヨ ナル開催		ディケンズ『互いの友』 (~65) ギヤスケル『妻たちと娘たち』(~66) トルストイ『戦争と平和』 (~69)
1865		第2次ラッセル内 閣		ギヤスケル没 M・アーノルド『批評論集』 キャロル『不思議の国のア リス』
1866	新規開校の美術学校に出席 する。	第3次ダービー内 閣	コレラ流行	モリス『詩とバラード』 ドストエフスキー『罪と罰』
1867	4月4日、妹エレン・ソフィ ア誕生。	第2次選挙法 カナダ連邦 パリ万国博覧会 工場法	工場に土曜半日制 ロイヤル・アルバ ート・ホール設 立 南アフリカでダイ ヤモンド鉱発見	マルクス『資本論』(第1巻) ゾラ『テレーズ・ラカン』
1868		パブリック・スク ール法 第1次グラッドス トン自由党内閣	労働組合会議	R・ブラウニング『指輪と 本』 モリス『地上の楽園』(~ 70)
1869		スエズ運河開通 アイルランド国教 会廃止	慈善組織協会	M・アーノルド『教養と無 秩序』 ミル『女性の隷従』
1870	12月28日、父トマス・ウォ ラーが肺充血で死去。	初等教育法 公務員の公開試験 制度導入 第1次アイルラン ド土地法 普仏戦争(~71)	紅海電信開通	ディケンズ没 ディケンズ『エドウィン・ ドルードの謎』 ディズレーリ『ロスエア』 D・G・ロセッティ『詩集』
1871	弟たちと一緒に、チェスタ ーのオールダリー・エッ ジにあるリンドウ・グロ oup・スクールにやられる。	第1次労働組合法 陸軍規正法 銀行休業法 ドイツ帝国成立 パリ・コミューン	大学入学時の国教 徒審査廃止 オックスブリッジ 学制改革	G・エリオット『ミドルマ ーチ』(~72) ダーウィン『人間の由来』 マイヴァート『種の発生』
1872	マンチェスターのオーエン ズ・カレッジに入学(オ ールダリー・エッジから 通学する)。	秘密投票法 独逸露三帝協商		バトラー『エレホン』 キングズレー『町の地質学』 T・クーバー『自伝』
1873			大不況の到来(~ 96)	ペイター『ルネッサンス』
1874		第2次ディズレー リ保守党内閣		ハーディ『狂乱の群を離れ て』
1875	冬、メアリアン・ヘレン・ ハリソン(通称ネル)に 会う。	スエズ運河株買収 公衆衛生法 職工住宅法 雇主・労働者法	チェンバレンのバ ーミンガム改革 ギルバート&サリ ヴァンのオペラ が好評を博す。	ホプキンス『ドイツラン ド号の遭難』
1876	3月、ネルと同棲。 3月31日、オーエンズ・カ レッジの更衣室で金を盗 み、窃盗罪で逮捕される。	インドの大飢饉 (~78) ディズレーリ、ピ ーコンズフィー	ベル、磁石式電話 を發明(米)	ステイーヴン『十八世紀イ ギリス思想史』 スペンサー『社会学原理』 (~96)

1876	6月7日、退学処分。 9月、リヴァプール港から 米国ボストンへ出立。 12月、マサチューセッツ州 のウォルサム・ハイスク ールで臨時教員の職に就 く。	ルド伯爵に叙せ られる。 第2次労働組合法		サンドフォード『若い女性 のための人生読本』
1877	3月1日、シカゴへ逃亡。 3~7月、シカゴの新聞社に 短篇小説を売り込む。 7~8月、ニューヨーク州ト ロイへ移動(写真屋の手 伝いとしてマサチューセ ッツ州とメイン州を旅す る。 9月、アメリカを離れる。 10~11月、ロンドンで生活 を始め、ネルと同棲再開。	ヴィクトリア女 王、「インド女 帝」宣言(イン ド帝国成立) 全国自由党連盟 露土戦争(~78) トランスヴァール 共和国併合	エディソン、蓄音 機を発明(米) 古建築物保護協会	スウィンバーン『恋の逆流』 メレディス『喜劇論』 ゾラ『居酒屋』
1878	1月、最初の小説を手がけ るが、未発表に終わる。 『ティンズリーズ・マガジ ン』1878年1月号に「芸 術家の子供」を発表(改 訂版、最初に掲載された のはシカゴの『アライア ンス』1877年6月30日号)。 11月8日、成年に達する21 歳の誕生日に遺産を受け 取ることになると、弟ウ ィリアムから聞かされ る。	ベルリン会議 ベルリン条約	ジンゴイズムの高 揚 ブース、救世軍を 創始	バトラー『生命と習性』 ハーディ『帰郷』 喜劇『軍艦ビナフォー』
1879	1月17日、亡命中の社会主 義者エドゥアルト・ベル ツと知り合う。 4月、300ポンドの遺産。 10月27日、ネルとロンドン のハムステッド・ロード にあるセント・ジェイム ズ教会で結婚。 11月12日、『暁の労働者た ち』完成。	アイルランド土地 同盟結成 英・仏がエジプト の財政管理 保護関税法(独)	過剰生産恐慌 農業の大不況 ロンバード街で電 話交換を開設 エディソン、白熱 電灯を発明(米)	H・ジョージ『進歩と貧困』 メレディス『エゴイスト』 ドストエフスキー『カラマ ーゾフの兄弟』
1880	1月、『暁の労働者たち』が 幾つかの出版社に拒否さ れる。 2月26日、レミントン社と 『暁の労働者たち』の出 版契約にサイン(遺産か ら出版費を払う)。 4月16日、弟ウィリアムが 肺血管の破裂で死去。 7月、実証哲学教会のフレ デリック・ハリソンに 『暁の労働者たち』を献	雇主責任法 第2次グラッドス トン自由党内閣 トランスヴァール で反乱 狩猟法改正 1880年教育法(義 務教育化)	オーストラリアか ら冷凍船輸送開 始	デイズレーリ『エンディミ オン』 ゾラ『ナナ』 G・エリオット没

1880	<p>本。</p> <p>9月4日、『ベルメル・ガゼット』での「社会民主主義に関する覚書」の出版が決定。</p> <p>11月27日、ツルゲーネフから『ヴェースニク・イブローフイ（ヨーロッパ通報）』に年4回の記事を書くように頼まれる。</p> <p>12月5日、ハリソンの息子たちの家庭教師を始める。</p>			
1881	<p>1月、実証主義者のカレンダーを使い始める。</p> <p>7月27日、ベルツがテネシー州ラグビーに立出。</p>	<p>第2次アイルランド土地法</p> <p>トランスヴァール独立</p>	<p>ロンドン自然史博物館完成</p>	<p>カーライル没</p>
1882	<p>1月19日、ネルがバタシーの痲疾病院に送られる。</p> <p>5月、痲疾病院を出ていたネルがケンジントンに移り、その後またソーホー・スクウェアに戻る。</p> <p>10月6日までにネルはギッシングのいるチェルシーのオークリー・クレセント17番地に戻っていた。</p> <p>12月26日、ベントリー社が『グランディー夫人の敵たち』に50ギニーを申し出るが、結局は未刊。</p> <p>12月27日、ネルは家具の半分を持ってバタシー南岸のブリクストンへ移る。</p>	<p>イギリス軍、エジプト単独占領</p> <p>継承産設定地法</p> <p>既婚女性財産法</p>	<p>82年恐慌</p>	<p>トインビー『産業革命』</p>
1883	<p>6月8日、ベルツがアメリカから帰英。</p>	<p>第2次農業借地法</p> <p>腐敗・不法行為防止法</p> <p>社会民主連盟</p>	<p>ダイムラー、自動車を発明（独）</p> <p>コッホ、結核菌を発見（独）</p>	<p>シーラー『イギリス帝国膨張史』</p> <p>ハインドマン『イギリスにおける社会主義』</p> <p>ステューヴンソン『宝島』</p> <p>シュライナー『アフリカ農場物語』</p> <p>ムア『現代の恋人』</p>
1884	<p>3月16日、新しい小説と「無鉄砲者」（未刊）という題の劇に着手。</p> <p>3月、ベルツがドイツに帰国。</p> <p>6月、『無階級の人々』をチャップマン・アンド・ホール社から出版。</p> <p>11月、『イザベル・クラレンドン』を執筆。</p> <p>11月24日、リージェント・</p>	<p>フェビアン協会</p> <p>第3次選挙法改正</p> <p>アフリカ分割をめぐってベルリン会議（～85）</p>	<p>社会民主連盟</p> <p>児童虐待防止協会</p> <p>『オックスフォード英語辞典』（～1933）</p> <p>議会調査委員会によるスラム問題の調査</p>	<p>トインビー『イギリス産業革命講義』</p>

1884	パーク南側のコーンヒル・レジデンス7Kを3年契約で借りる。			
1885	11月5日、『人生の夜明け』をオズモンド・ウェイマーの筆名でスミス・エルダー社に送る。 12月11日、弟アルジェノンがロンドンに来て、ギッシングと数ヶ月を過ごす。	ゴードン將軍死亡 議席再分配法 第1次ソールズベリ保守党内閣	『国民人名辞典』刊行開始（～1901、全66巻） レセップス、パナマ運河を起工（仏、94年失敗） 失業問題の深刻化	メレディス『クロスウェイ屋敷のダイアナ』 ムア『旅役者の妻』 ラスキン『プラエテリタ』（～89） ベイター『享楽主義者マリウス』
1886	3月、『民衆』をスミス・エルダー社から出版。 3月20日、フランス旅行（初のヨーロッパ旅行）。 6月、『イザベル・クラレンドン』をスミス・エルダー社から出版。 6月30日、ハーディに会う。	第3次グラッドストーン自由党内閣 チェンバレンの自由統一党成立 アイルランド自治法案否決 第2次ソールズベリ保守党内閣 ビルマ併合	C・ブースのロンドン調査開始 トランスヴァールで金鉱発見 伝染病法廃止 ロンドンで失業者の暴動	ステイーヴンソン『ジギル博士とハイド氏』 ステイーヴンソン『少年誘拐』 ハーディ『カスターブリッジの市長』 H・ジェイムズ『ボストンの人々』
1887	1月15日、『サーザ』完成。その後、休息のためイギリス海峡に臨む保養地イーストボーンに行く。 4月、『サーザ』をスミス・エルダー社から出版。 6月23日、ハーディの昔からの友人、エドワード・クロッドに会う。	ヴィクトリア女王即位50年祭 第1回植民地会議（のちのイギリス帝国会議） 第3次アイルランド土地法 独立労働党結成	法定8時間労働日運動	スマイルズ『人生と労働』 ドイル『緋色の研究』
1888	2月29日、イーストボーンにてネルの訃報を聞く。 3月19日、『ネザー・ワールド』に着手。 9月26日、バリ経由のイタリア旅行を開始。 11月、『人生の夜明け』をスミス・エルダー社から出版。	地方自治体法	ロンドンで切り裂きジャック事件 ロンドンでマッチ女工のストライキ	モリス『ジョン・ボールの夢』 キプリング『高原平話』 M・アーノルド没
1889	3月1日、イタリアから帰国。 3月24日、モーリー・ロバーツの紹介で博物学者のハドソンに会う。 4月、『ネザー・ワールド』をスミス・エルダー社から出版。 11月11日、ギリシャに出发。	スコットランド労働党結成 第2次インターナショナル結成（第1次世界大戦中に崩壊） 海軍防衛法	ロンドンでガス労働者のストライキ ロンドンでドック人夫のストライキ パリ万国博でエッフェル塔建設 『フェビアン社会主義論集』刊行	ブース『ロンドンの人々の生活と労働』（～93） ウォレス『ダーウィニズム』 ベイター『鑑賞論集』 イエイツ『アシーンの放浪』 R・ブラウニング没 ジェローム『ボートの三人男』
1890	2月28日、イタリアに少し滞在した後、ギリシャからロンドンに戻る。 3月、『因襲にとらわれない人々』をベントリー社から出版。	セシル・ローズ、ケープ植民地首相就任	ロンドンでチューブ型地下鉄開通 第1回メーデー	モリス『ユートピア便り』 ジェイコブズ『イングランド民話集』

1890	9月23～24日、二番目の妻となるイーディス・アンダーウッドに会う。			
1891	1月14日、エクセター州ブロスベクト・パーク24番地に転居。 2月25日、セント・パンクラス登記所でイーディス・アンダーウッドと結婚。 4月、『三文文士』をスミス・エルダー社から出版。 8月25日、エクセター州セント・レナース・テラス1番地に転居。 12月10日、長男ウォルター・レナード誕生。		公立初等教育の授業料廃止 『ストランド』創刊 ロンドンに独立劇場開設（～97）	ハーディ『ダーバヴィル家のテス』 ワイルド『ドリアン・グレイの肖像』
1892	2月、『デンジル・クウォリア』をロレンス・アンド・プリン社から出版。 5月、『流謫の地に生まれて』をエディンバラのブラック社から出版。	第4次グラッドストーン自由党内閣	92年恐慌 S・ウェップ『ロンドン綱領』 アイルランド文芸協会	ドイル『シャーロック・ホームズの冒険』 テニスン没 ワイルド『ウィンダム嬢の扇』 キプリング『兵営俗語集』
1893	4月、『余計者の女たち』をロレンス・アンド・プリン社から出版。 6月26日、ブリクストンのバートン・ロード76番地に転居。	ケア・ハーディ、独立労働党結成 炭鉱ストライキ	エディンソン、活動写真を発明(米) ディーゼル、ディーゼルエンジンを発明(独)	ワイルド『サロメ』 ハクスリー『進化と論理』 エジャトン『キーノート』 グラッド『妙なる双子』 イエイツ『ケルトの薄明』
1894	6月1日、ブリクストンの家を手放し、夏の間はブリストルの西にある海岸保養地クリーフドン、次はサリー州ドーキングに、それから同州エプソムに移る。 9月15日、エプソムのエヴァズリーに転居。 11月7日、裕福な不動産譲渡取扱人で、のちにギッシングの晩年の親友となるイライザ・オームに会う。 12月、『女王即位50年祭の年に』をロレンス・アンド・プリン社から出版。	地方自治体法 ローズベリ自由党内閣 8時間労働法	クリッチュ、アラビア印刷術を発明 グリニッジ天文台爆破事件 プライス委員会(中等教育の改善) 『イエロー・ブック』(審美主義運動の機関紙)創刊	キプリング『ジャングル・ブック』 ムア『エスター・ウォータース』 エジャトン『ディスコード』 メレディス『オーモント卿と彼のアミンタ』 ケアド[ダナウスの娘たち] ムア『エスター・ウォータース』 ステューヴンソン、ペイター、ロセッティ没
1895	4月、『イヴの身代金』をロレンス・アンド・プリン社から出版。 4月21日、サフォーク州オールドバラのエドワード・クロッドの家で聖霊降誕祭の週末を過ごす。 7月13日、オマール・ハイ	第3次ソールズベリ統一党内閣 J・チェンバレン、植民地相就任 工場法	教育の出来高払い補助金廃止 マルコーニ、無線電信を発明(伊) ナショナル・トラスト創設 ロンドン・スクール・オブ・エコ	ハーディ『日陰者ジュード』 アレン『やっつけけた女』 ウェルズ『タイム・マシン』 コンラッド『オールメイヤの愚拳』 ワイルド『まじめが肝心』 マクドナルド『リリス』

1895	ヤーム・クラブでメレディスと出会い、9月に彼を訪問する。 12月、『埋火』をアンウィン社から出版。		ノミクス開校 ワイルド裁判・投獄	
1896	1月、『下宿人』をカッセル社から出版。 1月20日、次男アルフレッド・チャールズ誕生。 4月22日、ウェイクフィールドの妹たちにウォルターを預けることに決める。 11月20日、H・G・ウェルズに会う。	労働調停法 第2次インターナショナル・ロンドン大会	大不況からの脱却 『デイリー・メール』創刊 第1回近代オリンピック大会、アテネで開催 『サヴォイ』創刊	キプリング『七つの海』 ハウスマン『シュロップシヤアの若者』 モリス没
1897	2月10日、イーディスを残し、5月末までデヴォン州の海岸町パドリ・ソルトトンで一人暮らしをする。 4月、『渦』をロレンス・アンド・プリン社から出版。 9月17日、イーディスと別れ、ほぼ7年に及ぶ結婚生活を終える。 9月22日、ディケンズに関する本を書くために、イタリア中部シエナに行く。 11月、『人間がらくた文庫』をロレンス・アンド・プリン社から出版。 12月15日、カラブリアで5週間を過ごした後、ローマに到着。	労働者災害補償法 ヴィクトリア女王即位60年祭 第2回植民地会議 英独通商条約の破棄	新世紀劇場開設 (~99) 婦人参政権協会全国同盟	ウェップ夫妻『産業民主制論』 ケア『抒情詩とロマンス』 ウェルズ『透明人間』 ストーカー『ドラキュラ』
1898	2月、『チャールズ・ディケンズ論』をグラスゴウのブラッキー社から出版。 3月9日、ウェルズ夫妻がローマ滞在中のギッシングを訪問。 4月12日、ドイツのポツダムに住むベルツを訪ねるためにローマを離れる。 5月6日、ドーキングのクリフトン・テラス7番地に家を借りる。 6月23日、ガブリエル・フルリから最初の手紙。 7月6日、サリー州のウェルズの家でガブリエルに会う。	スーダン再征服 ファッションタ事件 (~99)		ショー『完璧なワグナー主義者』 ムア『イーヴリン・イニス』

1898	7月26日、ガブリエルがドーキングでギッシングと1日を過ごす。 8月、『都会のセールスマン』をメシュエン社から出版。 9月7日、イーディスおよび次男アルフレッドと最後の面会。 10月8日、ガブリエルがイギリスに来て、ドーキングで1週間を過ごす。			
1899	5月7日、フランスでガブリエルと極秘に重婚(彼女の母親が唯一の立会人)。 6月2日。パリのシャム通りに店を構える。 10月、『命の冠』をメシュエン社から出版。	ポーア人の対英宣戦(～1902) 第2次ポーア戦争勃発	舞台協会創設 ラウントリがヨークで社会調査	コンラッド『闇の奥』 イェイツ『葦間の風』 ウェブレイン『有閑階級の論理』 ロバートソン『愛国主義と帝国』
1900	4月2日、イギリスへ戻り、家族、クロッド、ウェルズを訪問。 5月25日、フランスのニエール県サントノレ・バンに移る。 11月19日、パリに戻る。	労働代表委員会 労働党結成 経済恐慌	ジンゴイズムの高揚 ロンドン大学改組 夏目漱石、イギリス留学(～02)	ラスキン、ワイルド没 コンラッド『ロード・ジム』
1901	5月、『我らが大風呂敷の友』をチャップマン・アンド・ホール社から出版。 5月27日、ガブリエルと一緒にウェルズの家に到着。 6月24日、サフォーク州ネイランドのイースト・アングリアン療養所に入る。 6月、『イオニア海のほとり』をチャップマン・アンド・ホール社から出版。 8月上旬、フルリ母娘が夏を過ごすブルゴーニュ地方オータンに戻る。 12月3日、ジロンド県アルカシヨンのヴィラ・スズニールに転居。	ヴィクトリア女王没 エドワード7世即位(～10) ルーズヴェルト大統領就任(米) オーストラリア連邦成立	タフ・ヴェイル判決 大西洋横断無線通信に成功	ラウントリ『貧困——都市生活の研究』 キプリング『キム』
1902	4月24日、アルカシヨンからスペイン国境近くの海辺の町サン・ジャン・ド・リューズに移り、1ヶ月滞在する。 10月、ジョン・フォスター『ディケンズの生涯』の改訂縮刷版をチャップ	日英同盟 自由連盟 第2次ポーア戦争終結 バルフォア統一党内閣 プレトリア条約	バルフォア教育法(中等教育の改革)	ホブソン『帝国主義論』 ネスビット『砂の妖精』 バトラー、ゾラ没

1902	マン・アンド・ホール社から出版。			
1903	1月、『ヘンリー・ライクロフトの私記』をコンスタブル社から出版。 7月1日、避暑のため、隣のサン・ジャン・ピエ・ド・ポールに転居。 12月28日（奇しくも父親の33回忌の日）、午後1時15分に死去。	アイルランド土地購入法 チェンバレン関税改革運動	ライト兄弟、飛行機を発明（米） フォード、自動車会社を設立（米） 労働者教育協会 婦人社会政治同盟 アイルランド国民劇協会	ショー『人と超人』 バトラー『万人への道』 コンラッド『台風』 ハーディ『覇者たち』
1904	9月、『ヴェラニルダ』がコンスタブル社から出版される。	英仏協商 トランスヴァール共和国・オランダ自由国の植民地化	酒類販売免許法 オックスフォード大学に英文学の教授職設置 ダブリンにアベイ座創設	バリ『ピーター・パン』 コンラッド『ノストロモ』 H・ジェイムズ『黄金の杯』 コブデン・クラブ『飢餓の40年代』 ケア『中世』
1905	6月、『ウィル・ウォーバートン』がコンスタブル社から出版される。	アイルランドでシン・フェイン党結成 キャンベル＝パナマン自由党内閣	救貧法委員会 帝国国防委員会 ロンドン初のバス 婦人参政権運動の示威運動	ワイルド『獄中記』 スウィンバーン『レスビア・ブランドン』 ウエルズ『現代のユートピア』

(武井 暁子)